技能五輪

カレッジ20期生 弱冠21歳 高野さん（杉並）が銀賞

【建築カレッジ・吉川新吾記】11月24～27日、栃木県で開催された第55回技能五輪全国大会の建築大工職種で、建築カレッジ20期生の高野成己さん（21歳、高野工務店、杉並支部）が銀賞を受賞しました。カレッジ生の銀賞受賞は、08年・第46回大会の氏平達也さん、14年・第52回大会の水越優太さんに続く3度目となります。

高野さんは、カレッジ在校中の昨年、山形県で行なわれた同大会に初出場しましたが、結果は22位。全国レベルの厳しさを痛感したそうです。そして今年は「金賞を必ず獲る」の意気込みで猛練習に取り組みました。深夜まで特訓が続く日もありましたが、練習で作った最後の1台は会心の作になりました。

授賞式終了後「正直、本番では自分の中で満足行くものは作れませんでしたが、なんとか時間内に組み銀賞を獲ることができました。金賞を狙っていたので残念な気持ちもありますが、たくさんの方の支援でここまでできました。本当にありがとうございました。次の挑戦者には金賞を目指して頑張ってもらいたいです」と高野さんは語りました。

なお、同大会には、カレッジ在校生で第21期生の高田慎太朗さん（21歳、坂口建設、清瀬久留米支部）が初出場し、大健闘しました。

左から小林建築カレッジ学校長、高野さん、高田さん、片岡カレッジ指導員

労働者にアンケートを求める江東支部の仲間

北 青木議員と懇談
早速、財務省に伝える

【北・書記・井口和良記】11月28日、北支部は岡村書記長を先頭に地元の自由党青木愛参議院議員と参議院会館で懇談会を行ないました。

懇談会では岡村書記長より「建設産業の実情、低賃金の実態の報告」「建設国保予算獲得（財務省での）の必要性」を中心に懇談しました。青木議員は現在国土交通委員を務めており建設産業の実態を把握し、どうしたら建設業界及び建設従事者の待遇が改善されるか国会等で取り組んでいただいています。青木議員からは「建設国保予算確保の重要性がわかりました」と回答をいただき、早速国会会議中の忙しい中でしたが、財務省主計局に伝えに行っていただきました。青木議員からは「要望書を直接手渡し、丁寧な対応をいただいた」と報告がありました。

岡村書記長より感謝をお伝えしたところ青木議員からは「これからも建設産業改善の力になれるように頑張ります」と力強いコメントがいただけました。

青木議員（右）に要望書を手渡す岡村書記長

都交渉で調査活用
ビッグサイトで現場宣伝

11月20日、江東区有明の東京国際展示場増築工事現場で、江東支部の仲間、本部賃金対策部などのメンバーで現場に就業する労働者に宣伝と賃金アンケートを実行。この現場の建築は清水建設などのJVで東京都発注です。

2人1組で通用口から出てくる労働者に指差しアンケートのボードを見せて、協力を求めました。「みんなの声で賃金をあげよう！現場を変えよう！」と書かれたチラシとともに「一日の疲れを癒してください」と声を掛けながら入浴剤を手渡しました。

アンケートに答えたのは25人。昨年と比較して賃金があがったのはわずか5人。設計労務単価に遠く及ばない1日当たり1・6万円以下という労働者が70％を占め、これは昨年行なった調布・武蔵野の森現場での58％よりさらに悪い数字で、賃金引き上げの進んでいない実態が明らかになりました。

このアンケート結果などをもって、11月22日の東京都との予算要求交渉の場に臨み都を追及しました。

36協定必要わかった
事業所セミ、3回目を実施

【本部・沼口剛記】11月29日に都心部連携協議会と総合事業支援センターの共催で、組合内事業所20社、都心部連携協議会で事業所訪問をしている未加入事業所から2社、総勢34人が参加して3回目のセミナーを開催しました。

この間の社会保険未加入対策で社員化を進めた事業所にむけて、事業所として備えておくべきものは何か、「今さら聞けない…でも知らないと困ってしまう…会社が知っておくべき労務管理」と題して東京土建社労士ネットの高田聡史社会保険労務士を講師にむかえて学習しました。

法人化するメリットとデメリットから学習会は始まり、4保険・労働基準法・就業規則・法定帳簿…と労務管理全般を見渡すように、事業所として対応する必要性と建設業特有の実例を交え解説をしてもらいました。参加者からは多数質問が寄せられ、感想文からも「改めて考えることも多く、大変参考になった」「36協定は、あまり良くわかっていなかった。改めて対応したい」と大好評でした。

来年2月23日の第4回セミナーは、建設キャリアアップシステムを学習します。

文京 石綿ない社会に
わかり易く地域学習会

【文京・書記・野本章平記】11月28日に文京支部主催の「文京アスベスト地域学習会」を文京区民センターにて行ないました。

首都圏建設アスベスト訴訟について、東京土建本部の松舘書記と弁護団の平松弁護士から、今までの裁判の苦労や原告団の奮闘、今後の争点など丁寧に解説されました。

メインの講演では東京労働安全衛生センターの仲尾さんの講演が行なわれ、アスベストの性質やなぜ危険なのか、どんな病気を発症するのか、どのように対策するのかなどを画像やクイズを使いながら分かりやすく学習することができました。

そして文京支部の首都圏建設アスベスト訴訟の原告団の金井さんと飯田さんが登壇し、金井さんから、ご主人の闘病生活や、大切な人を亡くされた悲しみを語っていただきました。この後、応援と激励を込めて記念撮影が行なわれ、大きな拍手が会場を包みました。

右から大谷委員長、遺族原告の金井さん、飯田さん、平松弁護士

西多摩で安全大会
労災事故の傾向を学ぶ

【西多摩・書記・加藤弘峻記】11月21日、安全衛生大会が西多摩支部会館で行なわれ、34人が参加しました。青梅労働基準監督署から岡本信之監督課長、本部から須賀哲也書記を講師として招き、講演をしていただきました。

現状として、労災事故発生率は依然として高く、特に転落・墜落による事故が非常に多くなっていることや、近年は一人親方の事故件数がより多くなっていることを問題提起し、これらに対する現場での適切な防止策や安全対策について説明していただき、有意義な講演となりました。

心に留めなければならないことは、今回の講演が労災事故を減らしていくために、必要な対策の材料を提示したにすぎないということです。これらを踏まえてどうしていくかは、実際に現場で働く組合員一人一人の自覚と心がけ次第です。今回の講演が、適切な管理体制や安全対策を徹底し、労災事故の減少に繋がることを願います。

講演を聞く西多摩支部の皆さん